

令和4年度（2022年度）
函館市西部地区再整備事業
町会活性化プロジェクト

実施報告書

令和5年（2023年）6月

函館市

都市建設部まちづくり景観課

市民部市民・男女共同参画課

目次

- 1 町会活性化プロジェクトの概要と目的 P 1
- 2 令和4年度の実組概要 P 2
- 3 弁天町会の実組 P 2
- 4 青柳町会の実組 P 6
- 5 弥生町会の実組 P10
- 6 令和5年度の実組方針 P14

1 町会活性化プロジェクトの概要と目的

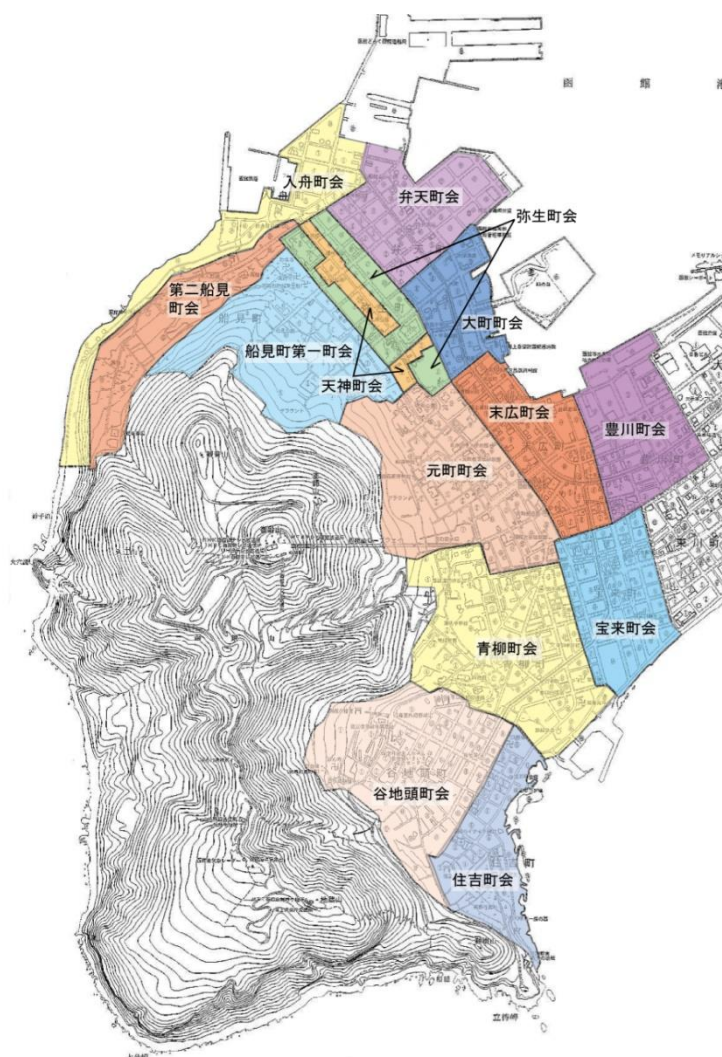
町会活性化プロジェクトは、令和元年（2019年）7月に策定した函館市西部地区再整備事業基本方針の3つの重点プロジェクトのうちのひとつとして位置づけされている。

人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下などにより資金力や活動量が減少している町会の活性化を行うものであり、市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化につながる取組を進める。

なお、本プロジェクトの対象町会は、基本方針の対象地区にある14町会とする。

対象町会：入舟町会、船見町第一町会、第二船見町会、弥生町会、天神町会、弁天町会、大町町会、末広町会、元町町会、青柳町会、谷地頭町会、住吉町会、宝来町会、豊川町会

合計 14町会



2 令和4年度の取組概要

令和3年度（2021年度）に引き続き、弁天町会をモデル町会として選定し、新たな人材である函館「荘」プロジェクトのメンバーおよび北海道教育大学函館校の地域プロジェクトのメンバーとの協働による町会の活性化に向けた取組を支援した。

また、新たに、青柳町会および弥生町会をモデル町会として選定し、役員会や町会行事への参加および意見交換を通して、町会運営の課題など現状把握に努めるとともに、市主催事業において町会活動について話題提供いただくなど町会の活性化に向け連携した。

3 弁天町会の取組

新たな人材である函館「荘」プロジェクトのメンバーおよび北海道教育大学函館校の地域プロジェクトのメンバーとの協働による町会の活性化に向けた取組を支援した。

(1) 取組内容

町会館を活動拠点とし、「スマイルくらぶ」と題した放課後に大学生と地域の子どもが交流する活動などを実施した。

ア 運営メンバーとの打合せ（令和4年4月22日）

北海道教育大学函館校地域プロジェクトと打合せを行い、今年度の活動内容について確認した。



イ スマイルくらぶ

一過性のイベントではなく、「日常的にまちの人々と関わることを目指した取組として、町会館を使ってできる遊びを子どもと大学生と一緒に考え実践した。

【開催実績】

令和4年 6月17日（参加者：18人）

令和4年 7月 8日（参加者：12人）

令和4年11月19日（参加者：22人）

令和5年 1月15日（参加者： 6人）



ウ 地域でつくる「道南スギ」製品トライアルプロジェクト

（令和5年1月15日 ※スマイルくらぶ終了後）

渡島総合振興局による道南スギの活用を推進する事業に参加した。



(2) その他の活動

ア 西部地区の「地域情報」への寄稿

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design のウェブサイト西部地区の「地域情報」として寄稿していただいた。

■スマイルくらぶ運営メンバー（函館「荘」プロジェクト）三浦 透眞 氏
「不便の中で生まれるもの」（令和4年8月23日）

【掲載URL】 <https://h-we-r.com/14miura/>



イ スマイルくらぶ運営メンバーとの意見交換

函館「荘」プロジェクト（わらし荘）との意見交換を定期的に行った。

(3) 活動結果等

昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったものの、町会館において、弥生小学校の生徒を対象とした「スマイルくらぶ（放課後に大学生と地域の子どもが交流する活動）」を計4回開催することができた。

取組に当たっては、北海道教育大学函館校の学生が地域プロジェクト※の一環として実施する「函館・西部地区における多世代交流プロジェクト」と連携・協力し、人口減少をはじめ、高齢化、空き家率の上昇が課題である西部地区にある町会（地域コミュニティ）に大学生等が参入し、様々なアプローチから町会の活性化に寄与した。

取組による効果として、町会館の利活用の促進、新たな人材（担い手）の育成、若い世代の地域活動への参加および地域の賑わい創出が挙げられる。

※ 教育大函館校の地域プロジェクトは、地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うために、平成27年度に新学科全学生の必修として新設された地域課題解決型 PBL（「Problem Based Learning =課題解決型学習」かつ「Project Based Learning=企画構想実施型学習」）科目。

【参考 URL】 <https://www.hokkyodai.ac.jp/hak/intro/area/>

<スマイルくらぶ参加者および地域住民の声（市職員聞き取り）>

- 様々な遊び・交流ができて楽しかった。これからも開催してほしい。（スマイルくらぶ参加者）
- 大学生との触れ合いが子どもにとって大事な経験になる。（保護者）
- 現在は町会の運営が曲がり角に立たされている状況である。活性化も大事だが、町会運営のあり方を考える時期である。
- 町会活動に負担を感じる人が増えているが、負担軽減を図りながら、より町会加入のメリットを示す必要があり、また、町会の魅力やメリットを感じられるよう、時代に合った運営をしていくことが何より大切である。
- 普段から町会を通じた交流があれば、災害時における支援などの情報を共有しやすくなる。今も昔も人と人のつながりが大切であり、そのつながりが災害等への備えとなる。
- 町会の活性化には、若年層の取り込みが必要。
- 町会活動目的の一つは地域住民の交流である。このような中、わらし荘は地域コミュニティを支える活動に日々取り組んでおり、若い活気が地域の活気にもなる。これからの活動を地域として応援したい。
- 西部地区の各町会と連携のうえ、課題に取り組んではいかがか。
- 株式会社はこだて西部まちづく Re-Design のウェブサイト「町会への新たな人材の関りを促し、官民連携した町会の活性化を推進していくことを目指す」と記載されているので、市やまちづくり会社の動きに期待したい。

(4) 今後の進め方について

これまでの取組を通して、地域と学生が西部地区のまちぐらし活動をつくっていく関係性が構築されていると感じており、その中から生まれる学生の感性や思い、行動が、様々な地域課題を解決する一歩となり、わらし荘における各種取組が生まれている。

学生が、大学に通うだけでなく、地域に暮らす構成員になることで町会をはじめ地域に大きな影響を与える存在になっていることを実感している。

担い手である「荘」プロジェクトメンバーと協議の結果、令和5年度は本取組を休止することとなったが、今後は、わらし荘における各種取組などを通じて、地域のつながり・交流につなげていくものとする。

4 青柳町会の取組

役員会や町会行事への参加および意見交換を通して、町会運営の課題など現状把握に努めるとともに、市主催事業において町会活動について話題提供いただくなど町会の活性化に向け連携した。

(1) 取組内容

ア 定期総会，役員会での意見交換

定期的に参加し、町会の課題や課題に向けた取組など町会の現状把握に努めた。

【参加実績】

定期総会 令和4年5月27日

役員会 令和4年5月～令和5年3月（計6回）



イ 町会行事への参加

町会員および地域住民の町会活動への参加促進などを目的として開催したチャリティバザーについて、運営の担い手として参加した。

(令和4年12月11日)



ウ 移動販売（貸館）の視察

無印良品シエスタハコダテが、高齢者など買い物難民の問題解決や地域の活性化を目的に毎月最終金曜日（原則）に定期開催しているほか、海産物やコーヒー、パンなど多種多様な店舗の出張販売も随時、同時出店していることから、視察を行い、出店者や来場者との意見交換を通して、地域の現状把握に努めた。

【視察実績】

令和4年6月～令和5年3月（計6回）



(2) その他の活動

ア 西部地区の「地域情報」への寄稿

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design のウェブサイト西部地区の「地域情報」として寄稿していただいた。

■副会長 岡本 啓吾 氏「西部地区の風景と生活」（令和4年5月17日）

【掲載 URL】 <https://h-we-r.com/O7okamoto/>

■役員 佐賀 吉憲 氏「Old is New」（令和5年3月31日）

【掲載 URL】 <https://h-we-r.com/23saga/>



イ 「函館西部地区ニュース」への出演

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design の公式 YouTube チャンネル「函館西部地区ニュース」に出演いただき、青柳町会の取組などについてお話いただいた。

■副会長 岡本 啓吾 氏

【配信 URL】

<https://www.youtube.com/watch?v=74ZU2UmCG4M>



函館西部地区ニュースVol5_2022年6月4日 シエスタ統括責任者・青柳町会副会長/岡本啓吾さん

ウ 市主催事業への参加協力

「西部地区の町会の取組」をテーマに開催した第3回函館西部まちぐらし共創サロン（令和4年11月18日）において、蒲生会長にゲストとして参加いただき、青柳町会の取組についてお話いただいた。



(3) 活動結果等

町会活動は、地域の防犯・防災活動や街路灯の設置・管理、地域交流等のための行事の開催、町会館の管理など多岐にわたっているため、町会役員の業務量が多く、現役で働く人たちが中心的な担い手となることは困難であることから、仕事をリタイアした人を中心に運営している場合が多い。

青柳町会についても役員が高齢化するなか、町会活動の担い手不足や町会活動への参加・関心度の低下などの課題を抱えていたところ、令和3年度（2021年度）に、会長をはじめ若い世代が役員に就任したことに伴い、それぞれの役割分担のなかで常に業務の見直しを図り、誰でも無理なく続けられる町会運営の仕組みづくりに努めてきた。

特に、町会行事には多くの住民が集まり、対話を通じてコミュニケーションが生まれることから、開催を継続することにより、地域の交流が深まり、町会への加入促進や担い手の確保など課題の解決につながることを期待されるほか、このような日常的な活動を行っているからこそ、いつ起こるかわからない災害への備えとして、万が一の際に自主防災組織として機能することができるので、町会主催の行事のほか、貸館の利用促進など、町会員をはじめ地域住民が集まる仕組みづくりは重要である。

取組による効果として、町会活動の見直しや町会館の利活用の促進、若い世代の町会行事参加、町会の現状の可視化などが挙げられる。

本市としても、役員会や町会行事に参加し、町会役員等との意見交換を行うことで、町会および地域の課題ならびに課題の解決に向けた取組を共有することができたほか、市主催事業において町会活動について話題提供いただくなど町会の活性化に向け連携することができたと考える。

<地域住民の声（市職員聞き取り）>

- 町会は必要な組織であるが、これからも継続していくために、今後どうあるべきか考える時期でもある。
- 町会行事は、住民の顔が見えコミュニケーションが生まれるので、町会への加入促進などに非常に有効である。
- 町会運営は、時代に合った取組（誰でも無理なく続けられる仕組み）に変化することが必要である。

(4) 今後の進め方について

青柳町会と協議の結果、令和5年度も引き続き、市職員が役員会や町会活動に参加し、町会をはじめ地域の課題や課題の解決に向けた取組を共有する必要があることから、モデル町会として選定することとしたい。

5 弥生町会の取組

役員会や町会行事への参加および意見交換を通して、町会運営の課題など現状把握に努めるとともに、市主催事業において町会活動について話題提供いただくなど町会の活性化に向け連携した。

(1) 取組内容

ア 役員会での意見交換

町会の課題や課題に向けた取組など町会の現状把握に努めた。

【参加実績】

令和4年7月25日

イ 町会行事への参加

(ア) 茶話会

町会費の納入日に併せて、町会員同士の親睦や町会への相談などを目的に毎月開催している茶話会に参加し、地域の現状把握に努めた。

【参加実績】

令和4年6月～令和5年3月（計9回）



(イ) その他

納涼祭（令和4年8月21日）やラジオ体操（令和4年7月27日）、敬老祝賀会（令和4年10月9日）、クリスマス会（令和4年12月18日）に参加し、町会活性化の推進に協力した。





(2) その他の活動

ア 西部地区の「地域情報」への寄稿

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design のウェブサイト西部地区の「地域情報」として寄稿していただいた。

■会長 石田 亮介 氏「新生 弥生町会」(令和4年9月8日)

【掲載URL】 <https://h-we-r.com/15ishida/>

■副会長 熊谷 光昭 氏「魅力あふれる 西部地区弥生町」

(令和4年9月28日)

【掲載URL】 <https://h-we-r.com/17kumagai/>

■役員 木村 美織 氏「私、絶対函館に住むから！」

(令和5年3月10日)

【掲載URL】 <https://h-we-r.com/22kimura/>

■地域住民 S.T 氏「西部地区への移住！初めて暮らす北海道」

(令和5年3月31日)

【掲載URL】 <https://h-we-r.com/24st/>





イ 「函館西部地区ニュース」への出演

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design の公式 YouTube チャンネル「函館西部地区ニュース」に出演いただき、弥生町会の取組などについてお話いただいたほか、納涼祭の様子を配信した。

■会長 石田 亮介 氏、副会長 熊谷 光昭 氏

【配信 URL】

<https://www.youtube.com/watch?v=4mxyvm4xxYo>



函館西部地区ニュースVol18_2022年9月3日_黒船サーカス2022/弥生町納涼祭

ウ 市主催事業への参加協力

「西部地区の町会の取組」をテーマに開催した第3回函館西部まちぐらし共創サロン（令和4年11月18日）において、石田会長および熊谷副会長にゲストとして参加いただき、弥生町会の取組についてお話いただいた。



(3) 活動結果等

弥生町会では、時代の変化とともに、町会の加入率および町会活動への参加・関心度の低下や役員の手不足などの課題を抱え、これまでの町会運営や町会活動が困難となっていたところ、会長・副会長をはじめとした役員世代交代を機に、役員役割や町会運営、町会活動などを見直すこととした。

課題の解決に向けた取組として、若い世代をはじめ多くの地域住民の町会活動への参加を促すため、茶話会など町会行事を積極的に開催している。

また、町会を運営するに当たり、業務量の多さが負担となっているなか、特定の役員に負担が偏ることのないよう、一つの役を複数の役員で担当するなど無理のない範囲で活動することを心掛けている。

さらに、地域への興味や関心を高め、町会活動への理解を促すため、新たにSNSによる情報発信を開始し、町会活動の「見える化」を図ることで、若い世代をはじめ誰でも気軽に町会活動について知ることができる仕組みづくりを推進している。

取組による効果として、会則や役員報酬の改定、班体制の見直しのほか、役員の手確保や若い世代の町会行事参加、町会加入者の増加が挙げられる。

本市としても、役員会や町会行事に参加し、町会役員等との意見交換を行うことで、町会および地域の課題ならびに課題の解決に向けた取組を共有することができたほか、市主催事業において町会活動について話題提供いただくなど町会の活性化に向け連携することができたと考える。

<地域住民の声（市職員聞き取り）>

- 町会活動を負担に感じる人が増えているのも事実。
- 町会活動で一番重要なのは、防災活動や災害時の助け合いであり、地域の安全を守る役割が多くの人に期待されている。
- 町会は必要な組織であるが、これからも継続していくために、今後どうあるべきかを考える時期でもある。
- 町会行事は、住民の顔が見えコミュニケーションが生まれるので、加入の推進などを図るために非常に有効である。
- 様々な地域行事を提供してくれる弥生町会の役員に感謝したい。
- 西部地区再整備事業を進める株式会社はこだて西部まちづくRe-Designについて、現時点でどのようなビジョンで取り組んでいるのかわかりにくいので、今後の活動に期待する。

(4) 今後の進め方について

弥生町会と協議の結果、令和5年度も引き続き、市職員が役員会や町会活動に参加し、町会をはじめ地域の課題や課題の解決に向けた取組を共有する必要があることから、モデル町会として選定することとしたい。

6 令和5年度の取組方針

令和4年度の町会活性化プロジェクトにおいて、各モデル町会は、それぞれの課題や特性を踏まえ、町会の運営方法や町会行事の見直しを行うとともに、時代のニーズに合わせて情報発信を強化するなど、役員や町会員がそれぞれの得意分野を活かしながら、町会の活性化を図っていると感じた。

各モデル町会の取組に共通していることは、町会活動を無理のない範囲で行うということであった。

このことから、令和5年度の函館市西部地区再整備事業基本方針における町会活性化プロジェクトについては、引き続き、新たに事業を立ち上げるのではなく、モデル町会の自発的な取組を尊重したうえで、市職員がモデル町会の取組に参加し必要な協力や助言を行っていくこととしたい。

